

## これからの鉄道事業のあり方 —新たな価値の創出と持続的発展—

What should be done in the railway business in the future?  
—The creation of new value and the sustainable development—

特集担当主査：内田 智也

特集企画担当：伊藤直樹、神谷 崇、森野 敬充、守屋 武海

オブザーバー：金子 雄一郎

### 都市の発展に 貢献を続けてきた鉄路

わが国における鉄道は、その正確性や速達性の高さもあり、都市圏内での通勤・通学や都市間の移動を中心に、大きな役割を担っている。

大都市部の通勤・通学需要に対しては、安全かつ正確に大量輸送を行うことで、都市の諸活動を支えるうえで必要不可欠な存在である。都市間の移動においては、新幹線など高速鉄道が骨格的役割を果たしており、それぞれの都市圏や各地域に大きな貢献をもたらしている。また駅は多くの場合において地域やまちの中心に位置し、駅を中心にエリア形成・拡大され、地域活性化に寄与してきただけでなく、歴史的面に見てもシンボリックな存在となってきた。そしてまた、大きな役割を果たしてきたこの「鉄道」の多くを、官営ではなく民間資本によって建設・運営してきたことは海外で類を見ないことであり、特筆すべき点である。

鉄道の歴史を振り返ると、1872年に新橋駅—横浜駅（現桜木町駅）間にて官営鉄道が開業して以来、全国各地に鉄道網が張り巡らされてきた。ま



図1 鉄道開業当時の様子（横浜市中央図書館所蔵）

た、1987年の国鉄分割民営化に伴い、既存の民鉄を含め、全国の多くの鉄道路線が民間として営業されることとなり、鉄道営業のみならず、沿線住宅開発や商業展開など多角的経営が展開され、安定経営に貢献している。

### いま目の前にある課題

このように大きな役割を果たしてきた鉄道ではあるが、昨今の人口減少や少子高齢化により長期的には鉄道需要が減少する見込みであるため、持続

表1 鉄道主要年表

西暦	和暦	出来事
1830年	文政13年	イギリス(マンチェスター—リバプール間72km)にて世界で初めて本格的な鉄道が開業
1872年	明治5年	鉄道開業(新橋—横浜(現桜木町)間29km)
1883年	明治16年	日本初の私鉄「日本鉄道会社」上野—熊谷間開通
1889年	明治22年	東海道線全通(新橋—神戸間)
1895年	明治28年	京都電気鉄道開業(最初の電気鉄道)
1901年	明治34年	山陽鉄道全通(神戸—下関間)
1910年	明治43年	箕面有馬電気軌道(現阪急電鉄)宝塚線・箕面支線開業、池田室町住宅地販売開始(私鉄による沿線開発ビジネスモデル)
1927年	昭和2年	日本初の地下鉄開業(浅草—上野間)
1934年	昭和9年	丹那トンネル開通、東海道線が御殿場経由から熱海経由に
1942年	昭和17年	関門鉄道トンネル開通(世界初の海底トンネル)
1962年	昭和37年	地下鉄日比谷線と東武鉄道にて相互直通運転開始
1964年	昭和39年	東海道新幹線(東京—新大阪間)開通
1975年	昭和50年	山陽新幹線全通(新大阪—博多間)
1977年	昭和52年	国鉄宮崎実験線においてリニアモーターカーの浮上走行実験開始
1982年	昭和57年	東北・上越新幹線(大宮—盛岡・新潟間)開通
1987年	昭和62年	国鉄分割民営化、JR7社誕生
1988年	昭和63年	津軽海峡線(青函トンネル)開業、本四備讃線(瀬戸大橋)開業
2001年	平成13年	ICカードSuicaサービス開始
2003年	平成15年	山梨リニア実験線で有人走行581km/h達成、世界記録更新
2004年	平成16年	東京地下鉄株式会社(東京メトロ)発足
2010年	平成22年	東北新幹線全通(東京—新青森間)
2011年	平成23年	九州新幹線全通(博多—鹿児島中央間)
2015年	平成27年	北陸新幹線(長野—金沢間)開業
2016年	平成28年	北海道新幹線(新青森—新函館北斗間)開業



写真1 東京駅夜景(写真:ドボ博/大村拓也)

## 新たな価値の創出と 持続的発展に向けて

的な発展への影響が懸念されるとともに、新たな投資が難しくなりつつあり、経営力向上に向けた工夫が求められている。その一方で、近年は地震や豪雨・強風等の災害が増加し、事前や事後の対応力強化が求められている。また東京圏での車内混雑や遅延は依然大きな課題となっており、その解決が望まれる。さらに海外に視点を向ければ、発展するアジア諸国からインフラ投資や技術支援の要望が根強い。

本特集では、前述した状況のなか、今後の効率的かつ効果的な鉄道施策、サービスとはどうあるべきかについて、これまでの鉄道整備の経緯を踏まえながら、座談会やインタビュー、また事例紹介にて取りまとめた。特にわが国の鉄道の特徴である「民間力」に着目し重点を置く一方で、学識経験者による研究内容や行政が主導する内容も織り交ぜながら記事を展開した。まず、土木工学科出身の鉄道会社社長と学識経験者の座談会により、現在の取組みや今後のあるべき姿を企業トップの高い視座で広く議論いただく

とともに、土木技術者に対する今後の期待を伺った。次に、さまざまな分野で活躍されている女性有識者の視点にて、今後の鉄道や駅に対する期待を、さらなる理想像や、まちや人との関わりを見据えながら座談会にて議論いただいた。

分析、歴史的経緯や現在の動向を踏まえた地域社会における駅の未来像、都心拠点駅周辺開発の具体事例、の3点について取りまとめた。「民間力を活かした事業展開」では、民間主導の大規模プロジェクトである中央新幹線(リニア新幹線)の進捗状況、高速バスとの結節など鉄道利用促進や沿線活性化施策の具体事例、鉄道を核とした観光振興の取組み、大手民鉄の事業モデルの体系化、鉄道における民間力の起源・特徴・将来展開に関する学識経験者へのインタビュー、公営鉄道の民営化における利点や今後展望、の6点について取りまとめた。

「安全・安心、快適性」では、大災害に対するハード面・ソフト面での対策状況、慢性的混雑の解消に向けた先進的取組みの方針、を取りまとめた。「鉄道会社の海外展開」では、オールジャパンで取り組むインド新幹線の現状や課題について取りまとめた。長期的には需要減少が見込まれるなか、本特集が都市部・地方部それぞれにおいて、今後の鉄道事業やまちづくりの持続的発展に寄与することを期待するとともに、将来的な駅のあり方再考のきっかけとなれば幸いである。